

くまがや だんじん

第8号

熊谷市・熊谷市青少年健全育成市民会議

25.1.1

家族とのもちつき

大幡小学校六年

四分一翔太

幸せを噛みしめる
～家族の存在～

大麻生中学校三年

松本有香里

感謝の気持ちを毎日忘れず、家族と過ごす時間大切にしていきたい。家族と毎日一緒にいられる幸せを深く、深く、噛みしめたい。



ある日、ふとテレビをつけてみた。
画面を見て、その光景に驚き唖然とした。それは、親に置き去りにされ、子ども同士で生活している光景だった。中には、路上暮らしをしている子どももいた。

その時初めて、家族と毎日一緒にいるのは当たり前ではないということを知った。ところが、最近の私を思い返してみると、家族に向かって、「うるさい。ほつといて。」などと暴言をはくことが多々あった。私よりも小さい子どもたちが、毎日つらい思いをして

いるというのに、私は何てぜいたくばかりしているのだろうと情けない気持ちでいっぱいになってしまった。

それだけではなく、私はとてもとても大切なことを忘れていたのかもしれない。
私たちには、誰もが母のお腹から生まれてきた。家族の手がなければここまで大きくなつていらない。重い病気もなく生きていられるのは、家族の支えがあつたからだ。

ずっと支えてくれた家族に、面と向かつて「ありがとう。」を言つたことがあるだろうか。普段は、恥ずかしくて、言葉に出して言えないが、今ここで言葉で伝えたい。

「いつも支えてくれてありがとう。」

大幡中学校三年
前田星
家族の愛
言葉に隠れた
本当の心

わが家の金メダリスト

石原小学校五年
山川明日加

わたしの家族は六人家族
おじいちゃんは

笑顔の金メダリスト
おばあちゃんは

元気の金メダリスト
お父さんは

愛情の金メダリスト
お母さんは

やさしさの金メダリスト
おねえちゃんは

おもしろさの金メダリスト
わたしは何の金メダリストになれるかな

そんな金メダリストの家族が
わたしは大好き

お母さんのあじ
籠原小学校六年
落合絢乃

お母さんのあじ
それは
ほつとするあじ
お母さんのあじ
それは
おばあちゃんのあじ
お母さんのあじ
それは
勇気をくれるあじ
大きくなつたら 私の料理は
まぼうのあじに
なつて いるかな

お母さんのあじ
三尻中学校三年
山田恵里

私は今、家族四人で暮らしています。各々仕事や学業が忙しく、なかなか家族全員がそろうことありません。ですが一つだけ、我が家で心がけていることがあります。それは、誰かと一緒にごはんを食べることです。時間がないときなどは、大変に感じてしまうこともあります。ですがやつと、その意味がわかりました。

同じ味でもちがう味
三尻中学校三年
山田恵里

私は今、家族四人で暮らしています。各々仕事や学業が忙しく、なかなか家族全員がそろうことありません。ですが一つだけ、我が家で心がけていることがあります。それは、誰かと一緒にごはんを食べることです。時間がないときなどは、大変に感じてしまうこともあります。ですがやつと、その意味がわかりました。

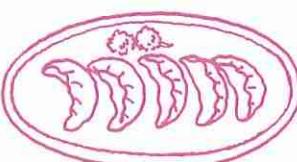


はじめてのぎょうざ作り

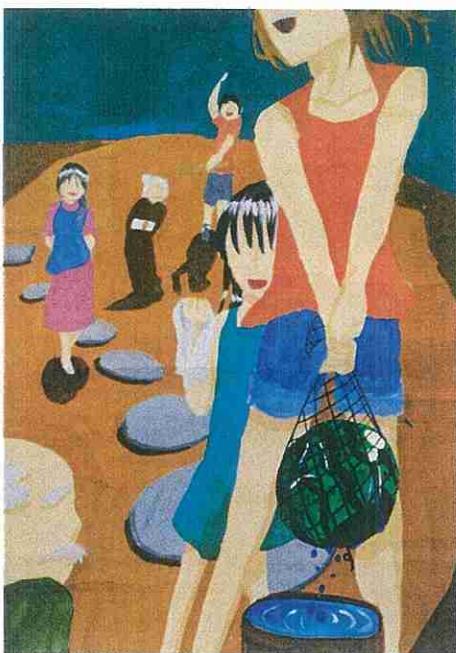
熊谷西小学校二年

飯田幹弘

さいきんのぼくの家で一ぱんたのしかつたことは、ぼくとお母さんとおばあちゃんとぎょうざを作つたことです。おばあちゃんがぼくにぎょうざの作りかたを教えてくれました。おばあちゃんに教わったやりかたは、まず、ぎょうざの外がわのうすつぺらいのものに水をつけます。りょうほ



宝のおもちゃの車が見つかった時は、三人で大よろこびです。だからぼくは、たんけんごつこの宝さがしが大きで、いつしょにあそんでくれるお兄ちゃんたちやお姉ちゃんも大きです。ぼくも、もう少し大きくなつたら、妹や弟に宝さがしの地図をかいていつしょにあそびたいと思います。



夏の団らん
富士見中学校二年
松本環

いました。そこで私は、ふと氣付きました。独りだけで食べているからこそ、そう思うのだと。
家族と会話をしながら食べるから、毎日美味しくごはんが食べられるわかつて、私はとても驚きました。だから、これからは家族全員が一緒にそろつて食べることを大変と思わずに、「きちんと、みんなと食べる。」その時間を大切にしていきたいです。

「お母さん、これ美味しいね。」そんな会話の出来るひとときの貴重さを感じていこうと思います。

うじゃなくて、かたほのはん分にゆびで水をつけるのです。
つぎに、水をつけたところの内がわのぶ分にやさいやおにくをませたものをスプーンでのつけて、まるめて、おぼんにのせます。

あとは、ぎょうざせんようのフライパンでやくだけです。はじめて作つたけれど、とてもじょうずにできました。

お母さんが

「かわをよせるのがじょうずだね。」とほめてくれました。ぼく一人で二十五ごくらいうぎょうざが作れました。

お母さんが

「みきひろの作つたぎょうざ、おいしく

いました。

と言ひながら食べました。しようゆをつけて食べました。家ぞくみんなで食べました。

「みきひろの作つたぎょうざ、おいしく

いました。

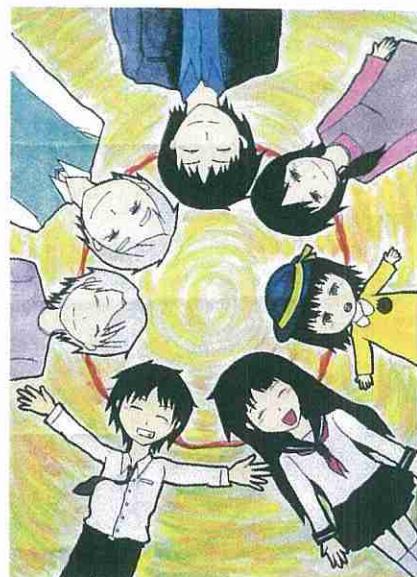
と言つてもらつて、また作りたいなど

いました。

思いました。

いました。

毎月第3日曜日は「家庭の日」です



笑
顔

市田 小学校六年
遠井 翔大



笑
い声
ひびけば みんなの
笑顔のリレー

妹の声 キヤキヤキヤ
ぼくの声 ワハハ
お母さんの声 ウフフ
お父さんの声 アハハハ

これがぼくの家族の
笑顔のリレー

大切な愛情、を

吉岡中学校三年
松本万宝

六人家族になつたよ

籠原小学校三年
飯島 莉子

八月十六日にずっと楽しみにしてい
た妹が生まれ、わたしの家族は六人に
なりました。

私の生活

中条中学校一年
濱野真伊

赤ちゃんはとっても小さくて、びつ
くりしました。三キロもないそうです。
おっぱいをおいしそうに飲む様子を見
ていました。

「ただいまあ。ばあちゃん。」

私は、最近祖父が亡くなつてから祖
母の家に帰っています。毎日ではない
す。

そんな自慢のお母さんが大すきで
ほめてくれます。

教えてくれました。

お母さんから、赤ちゃんが八月に生
まれると聞いたのは春のころでした。

けれど、祖母が一人になつてしまふの
でお泊りもしています。

祖母の家に帰つて私は、まず祖父に

お線香をあげます。

「じいちゃん、ただいま。今日も見守つ
てくれてありがとうございます。じいちゃん修行、
がんばってね。」と言います。私の祖

父は、今、天国に行くために、いろいろ

神様に勉強を教えてもらつています。
それが、『修行』です。祖父には、
生前、苦しかつた分、天国に行つて、
ゆっくり体を休めてもらいたいと思いま
した。

私が次にすることは、掃除と夕飯の

したくです。母と祖母と私、女三人台

所に並んでしたくをします。お手伝い

をすると祖母が「ありがとうございます。」と言つ

てくれます。特にいつも欠かさずによ
ることは家族全員にお茶を入れること

です。お茶入れは祖母に一番喜ばれま
す。

祖父が亡くなつてからの生活は以前
ととても変わりました。それで、疲れ

てしまうこともあります。けれど、祖

母はもつと悲しく辛いと思います。だ

から、私は祖母に迷惑をかけないよう

に生活し、祖母となるべく支えてあげ

たいと思います。これからも、一緒に

過ごす時間を増やして、祖母に長生き

してほしいと思います。

お母さんは、サラダをもりつけて、

食卓へ持つていきました。

「やるじやん。」

と、ほめてくれました。

お母さんは、よくおこりますがよく

うによそつて、食べた時に

「うまい。」

お母さんは、よくおこりますがよく

ほめてくれます。

そんな自慢のお母さんが大すきで
ほめてくれます。



Grand ma

お母さん

妻沼小学校六年
田原彰大

ぼくの家は、お母さんと二人家族で
夕飯にカレーをお願いした時のこと

です。

台どころにいたお母さんに呼ばれま
した。そしたら、ニンジンとジャガイ
モがまな板の上にありました。ぼくは、
すぐ切るんだと思いました。

「たまには、手伝つてね。」
といわれました。

家庭科でならつたとおり、かわをむ
いて一口大に切りました。

タマネギをいためている鍋にぼくが
切つた二ンジンとジャガイモを入れま
した。水を入れて少しにこんで、カレー
ルーを入れてさらにかきませながらに
こみました。

その様子を見ていたお母さんが
「やるじやん。」

と、ほめてくれました。

お母さんは、よくおこりますがよく

うによそつて、食べた時に

「うまい。」

お母さんは、よくおこりますがよく

ほめてくれます。

毎月第3日曜日は「家庭の日」です

親子

大幡中学校三年

だっこだっこの夏休み

久下小学校四年

新田 優利

大嶋 菜月



夏休みに、私のクラスではおもしろい宿題がでました。一週間に一回、家族全員から一分間だっこをしてもらう、という宿題です。私は、「えー、はずかしいな。」と、その時は思っていました。

夏休みに入つてすぐ、親せき十二人で旅行に行きました。その夜、さつそくお母さんにだっこしてもらいました。心がボカボカして温かくなりました。最初に思つていた「はずかしいな」という気持ちがなくなり、とてももうれしくなりました。

次に、親せきの人にもお願ひしました。みんな、私が生まれたころから知つてるので、「大きくなつたね。」「久しぶりだね。もうこれが最後かな。また、だっこさせてね。」

などと言ひながら、え顔でいっぱいになりました。赤ちゃんのころの話を聞き、楽しい夜でした。みんなが私を大好きなことも、だっこをしてもらつて感じました。

私はそれからも、ほとんど毎日、だっこをしてもらっています。私は、夏休みあけも時間があつたらだっこをしてもらおうと思っています。



成田小学校六年

多田朱里

ぬくもりを感じる母の
おみそ汁

みんなで花火

熊谷西小学校三年

大竹摩弥



玉井中学校二年

井澤里菜

家族の意味

玉井中学校二年

井澤里菜

家族
やさしくて
暖かくて
悲しくてもさみしくても
いつでも包みこんでくれる
何でも分かってくれる

たとえ私が泣いていたとしても
抱きしめて痛みを感じてくれる
それが家族

口答えしても嫌いになつても
ずっと家族

あたりまえすぎて言えなかつた
でも本当に本当に

「大好き」



大幡中学校三年

新田 優利

大嶋 菜月

みんなで花火

熊谷西小学校三年

大竹摩弥

みんなのご協力を得て、今年度も心温まる作品を沢山掲載することができます。

集まつた作品からは明るさや優しさ、思いやり、感謝など家族に対する子ども達の思いが伝わってきます。そして、読む人に家族の大切さを感じさせてくれます。

「だんらん」とは家族が集まつて、楽しくなごやかに過ごすこと。

自分が安心し、自分らしくいられる家庭。自分のことをいつも大切に感じ、支えてくれる家族。一緒になつて笑つたり、小さなことでも幸せに感じ合える家族。家族の良さを実感できる場面は沢山あります。そのことに気付き、互いが互いを感謝し合える気持ちが大切なのではないでしょうか。

文章から伝わる子どもの気持ち。絵から伝わる子どもの思い。様々な家族のだんらんから生まれた感謝の心を読み味わつていただき、あたり前のように思つている家族の温かさを改めて感じていただけることを願つています。

(妻沼西中 井上詠子)

文集「だんらん」第八号は次のとおり展示します。ぜひご覧ください。
◎市役所(本庁舎)一階ホール

一月四日(金)から十八日(金)

八時三十分から十七時十五分まで。
ただし初日は十三時から、最終日は十四時まで。

編集後記

(妻沼西中 井上詠子)